国語科学習指導案

実　施　日　平成２２年９月２日
実施クラス　３年４組
授　業　者　大　池　尚　子

１　指導単元　「俳句の創作と鑑賞」

２　単元設定の理由

俳句創作に関する授業は、１年次、２年次はそれぞれ８時間程度、今年度はここまで３時間行ってきた。生徒達は、校庭での吟行を通し五感を働かせて実感で句作することや、教室句会やその後の合評を通じ、互いの表現の仕方から学び合うことを経験してきた。

本授業では、１時間の中で創作・選句・合評を行う。これまでの俳句学習の上に、１時間に凝縮された俳句の楽しさを味わわせたい。そして、そのことを３年間の俳句学習のまとめの授業につなげていきたいと考えた。

３　単元の指導目標（括弧内は新学習指導要領による）

（１）表現の仕方を工夫して俳句を作る。
（第２学年　書くこと（１）ウ　事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。（２）ア　表現の仕方を工夫して、詩歌をつくったり物語などを書いたりすること。）

（２）作った俳句を互いに読み合い、合評し、表現の仕方などについて自分の表現に役立てる。
（第３学年　書くこと（１）エ　書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。
話すこと聞くこと（１）ウ　聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。）

４　単元の指導計画（１時間扱い）

（１）・秋の季語「竜胆」で各自俳句を１句作る。
・班に分かれ、俳句を読み合い、班の代表１句を決める。
・選んだ句について、班ごとに、よいところや工夫点など発表する。
・全ての班の発表を聞いて、改めて心に残った俳句を各自が選び、クラス最高点句を決定する。
・それぞれが選んだ句の感想を書き、発表する。

５　授業改善のポイント

（１）研究主題との関わり
俳句のもつ「座の文芸」という特性は、もともと学び合う場面を設定する上で、たいへん適している。その点を踏まえつつ、３年間で積み重ねてきた俳句学習における学び合いを１時間の中に凝縮して体験させたい。

（２）授業評価の結果分析をふまえての改善のポイント
「発言したり質問したりしましたか」についての自己評価が過去２年間低く（１年次「あてはまる」17%「ややあてはまる」37%，２年次「あてはまる」19%「ややあてはまる」37%）、今年度やや伸びたとはいえ（「あてはまる」41%「ややあてはまる」30%）、他の項目に比べるとまだ低い。班の人数を４人程度に絞ることで、１人ひとりに発言の自覚を促し、発言のチャンスを多く与えたい。

（３）学力調査の結果分析をふまえての改善のポイント
３年になって「書く」の力が伸びているが、作文演習とともに俳句の創作が「書く」力の基礎を作っていると考える。表現の工夫をし、情景や気持ちをより的確に表すことを意識させたい。

６　本時の授業

（１）本時のねらい
①秋の季語「竜胆」で、表現の仕方を工夫した１句を作る。
②作った句を読み合い、選句・合評することで、表現の仕方の工夫を学び合う。

（２）本時の展開

	学　習　内　容	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点(■評価)
導入５分	・本時のめあてを知る。 ・本時の流れを理解する。	・めあては板書しておく。 ・作句、班の代表句決定、発表、クラス最高点句決定の流れを説明。	・めあてをノートに写している。 ・興味深く聞いている。 ・以前行った授業を思い出している。	・班は４名を基本とする。本授業用に組んだ班である。

展開35分	・今日の季語が「竜胆」であることを知る。 ・竜胆について確認する。 ・秋の季語「竜胆」で１句作る。（１０分間） ・作った俳句を短冊に書く。 ・班で代表句を選び、選んだ理由を話し合う。（7分） ・班ごとに選んだ句と選んだ理由を発表する。（１５分） ・発表を聞いて、いちばん心に残る句を選び、クラスの最高点句を決定する。（3分） ・最高点句を確認する。	「この花は何ですか。」 ・短冊を配る。 ・竜胆を数箇所に置く。 「短冊にしっかり書きましょう。」 「選んだ句はマジックで紙に書いて黒板に貼ってもらいます。発表者を決めておくように。」 ・一斉に黒板に俳句を貼らせる。 「発表者は、選んだ俳句と選んだ理由を説明してください。全ての班の発表を聞いた後、今度は、自分個人としては、どの句にいちばん引かれたかを決めてもらいます。」 ・どの句を選んだか挙手させる。	少数から「竜胆。」 ・竜胆を観察する。 ・集中して作句する。 ・短冊に作った句を書いている。 ・班隊形を作る。 ・句を読み合い、意見を出し合っている。 ・発表者を決めている。 ・選んだ句を紙に書いている。 ・順番に発表する。時に補足の発言もある。 ・興味深く発表を聞いている。 ・迷いながら決定し、選んだ俳句を用紙に記入している。 ・最高点句に拍手する。	・竜胆は直前に目に触れるような工夫をし、興味を高めるような演出をしたい。 ・なるべく近くで見せるため、数箇所に置けるよう複数用意する。 ■竜胆に集中して作ろうとしている。 ■表現の仕方を工夫している。 ■選んだ句について表現の仕方の工夫点など意見を述べている。 ・班を回り、個々の作品をチェックし、よい作品を書きとめておく。 ■発表者は、選んだ句について、表現の工夫点やよいところをしっかり伝えている。 ■よいと思う句を自信をもって選んでいる。
まとめ10分	・自分の選んだ句について感想を書き、発表する。 ・教師の総評を聞く。	・友達の俳句や発表から学んだ点を中心に書くことを指示する。 ・数名指名する。 ・本日の総評を行う。	・集中して書いている。 ・感想を読み上げる。 ・興味を示して聞いている。	■選んだ句について、選んだ理由や、学んだことなどを書いている。 ・総評で代表にならなかった作品等についても必要に応じて触れる。

7　単元の評価

（１）B評価

・制限時間内に、表現に工夫をして１句つくることができたか。（観察、俳句の短冊）

・班の話し合いや各班の発表から友達の俳句について表現の工夫を知り、これからの俳句作りに生かそうとしているか。（感想文）

（２）支援を必要とする生徒（C評価）への手立て

・個別指導でヒントを与えることにより、時間内に１句できるよう導く。

・字数にとらわれず、友達の俳句のよい点を一つでも書くことができるよう声かけをする。

8　本時の板書計画

今日の目標

工夫をして俳句を作り、友達の作品のいいところを学ぼう。

俳句①

・・・・・・

俳句⑦

9　授業を終えて

竜胆を観察してその場で短時間のうちに俳句を作る、ということが一つのポイントであった。竜胆を初めて見る生徒も多かったが、全員が時間内に作ることができた。そのことが、それ以降の展開をスムーズにしたようである。班の話し合い、代表句の発表とも、活発な意見が交わされ、よい学び合いの場とすることができた。